

教育長賞の選評

新城小学校

五年 平良 梨夏

「スイングと いっしょにまきこむ 秋の風」
一瞬の印象を捉えた句です。「スイング」は、野球のバットの素振りとも、実際のバッターボックスでのこととも解釈できますが、それはどちらでもよく、バットの回転の熱さと一瞬の秋風の涼しさの対比を理解すればよいものです。その上で、「まきこむ」に、「スイング」の強さがよく表れています。俳句は静の情景を詠うものが多いのですが、この句は動の情景になっています。

垂水中央中学校

二年 川畑 岳生

「田の水面 浮かびし景色 線対称」
一 観察の鋭さがよく表れている句です。句の意は明らかで、言われてみれば誰でも気づく情景ですが、実はそれを「線対称」と見るのはなかなかできることではありません。俳句は、まず観察、次に表現です。この両者が、おそらく一瞬のうちに浮んだのがこの句の佳さだと理解されます。「田の水面（みなも）」で夏の句です。

垂水高等学校

一年 牧元 亜実

「大人びた 笑顔をつくる 浴衣かな」
一 大人びた 笑顔をつくる 浴衣かな 一は、繊細な感覚でつくられた句です。友人が浴衣を着て、大人っぽく笑ったとも、自分が浴衣を着た時に大人っぽく笑顔をつくったとも解釈できます。前者にとると、鋭い観察に基づいた句になり、後者にとると、作句者の自分を大人に見せたいという自意識が入り、まったく別の句になります。解釈の多様性を許すのも優れた句の特徴です。後者の解釈が面白いかもしれませぬ。

講評及び今後に向けての指導

【小学校】

俳句は身の回りの情景や出来事や自然の景色などを、細かく観察することに始まります。そこに俳句になりそうな興味深い素材を見つけたら、次にそれをどういう言葉で表すかという表現のしかたが課題になります。短詩形といわれるように、三十一字で表現しないといけないので、言葉を厳密に選ばなくてはなりません。

このことを逆に考えると、俳句を作るということを頭の隅に置いて生活すると、観察が細かくなり、同時に言葉による表現についても敏感になります。このことは、単に俳句を作ることだけではなく、他のことにもひじょうに役に立ちます。私たちの生活は言葉によって成り立っていますので、生活を豊かにすることに俳句は役に立ちます。

【中学校】

中学生になると、俳句で表現する素材は、単なる自然の景観だけでなく、俳句を作る人の生き方という人生に関係するものが増えてきます。それだけに、それを表現する言葉も、日常で使う生活用語だけではなく、古語といわれる日本の伝統的な言葉や、いろいろの本を読むことよって得られる言葉などで表現することが増えてきます。中学生になって毎日の生活が、精神的にも物質的にも複雑になってくると、それを表現する言葉も多種多様でないと、うまく表現できなくなります。言葉の数が増えていくと、それだけ私たちの生活は豊かになっていきます。俳句はそのような精神的な成長を手助けしてくれます。

【高等学校】

俳句の作り方に「花鳥諷詠」という言葉があり、俳句は、花や鳥に代表されるような自然現象を、見えたままに表現するつまり「写生」という考えがあります。しかしこの考え方は誤解されやすく、もし自然現象を客観的に表現するなら、誰が俳句を作っても同じだということになります。俳句にかぎらず芸術にはそれを作った人の個性の表現が必要で、たとえば桜島を詠うとしても、自分には桜島はこういふところが美しいのだという、他の誰とも異なる自分だけの見方と表現とが、つまり俳句を作る人の個性が必要です。「花鳥諷詠」とか「写生」とかという俳句の作り方には、マンネリズム（ありきたり）になってしまう危険性を含んでいます。

高校生になれば、自分の将来の生き方を本気で考えないといけなくなります。俳句について考えることは一つの方法ですが、これから、自分が個人的につまり魅力的に生きる人生を選ぶために、俳句を役立ててください。